日時：2010 年 5 月 27 日（木）13：30〜14：30
会場：関西外国語大学　中宮キャンパス　多目的ルーム

私立大学図書館協会西地区部会阪神地区協議会　講演会
「広辞苑について」

堀井令以知先生の略歴を紹介後、講演会が行われた。
広辞苑改訂に携わった経験をもとに、第 6 版で新たに追加された言葉の説明やこれまでの広辞苑との違いについての発表であった。
はじめに、『広辞苑』の編者、新村出先生の紹介が略年譜に沿ってあった。経歴紹介に合わせて時代背景や親交のあった人物、ゆかりの地についての説明があり、どういった経緯でどのような道を歩まれたのか、新村先生の人となりを知った。平凡を好み決して無理をなさらない方である一方、方言や東西語法に早くから関心を持ち自ら調べ歩く精力的なところは、広辞苑の編纂へ大いに活かされたであろう。
広辞苑については、以下の 7 項目に分けて説明があった。
1) 若者ことばで意味を変えた語：例えば「まったり」
　言葉の意味の移り変わりに即して、優勢的に使われるようになった意味を新たに追加
2) 現代の社会生活に強い辞書：例えば気象用語「未明」、コンピューター用語「うわがき」
　今後も広く使われるだろう専門語彙の追加
3) 明治期の文献を対象に加えた：例えば「こんちくしょう」
　夏目漱石や森鴎外といった文豪の作品の中から用例を追加
4) 地方語の重視：例えば「ちばりよお」
　テレビ等で頻繁に耳にするようになった方言の追加
5) 語句の追加：例えば「ウルトラマン」「赤バット」
　昭和期の事項に関する語句の追加
6) 図版の追加：例えば「唐臼」
　説明はあるが読んだだけではよく分からないが図示すればわかるものに図版を追加
7) 既存の解説の見直し
時代の変化・要請に合わせた改訂作業により、約一万語にも及ぶ言葉が新たに収録されたという。約一万語が追加されたにも拘わらず減らした言葉がほとんどないということも大変興味深い。言葉とはいつの時代でも絶えず変化し揺れ動いているもの、刻々と変わっていくものである。なくなりつつある言葉であっても完全に消滅してしまった言葉であっても使わなくなったからなくすのではなく、どう残しどう後世に伝えていくか。改訂した理由を丁寧に解説してもらえたことで、言葉の奥深さを学ぶと同時に、意味を調べる辞書としてだけではない広辞苑の見方、面白さに触れることができたように思う。
質疑応答では言葉のいわれについて「まつぼっくり」や「めばちこ」を例に挙げて説明があった。